

長野県教育委員会の取組 (子どもの学びをトコトン支える県民の会など)

2025年9月24日(水)
長野県教育委員会事務局



子どもの学びをトコトン支える県民の会って何？

課題意識：「学校の先生の負担感解消」学校だけで解決できるのか

みんなで
解決する必要

学校や行政だけでなく行政、産業、大学、保護者、地域団体等、
多様な立場の関係者にお声がけして、
学校現場の業務実態について話し合ってもらい、
みんなで学校を支えようという機運醸成



子どもの学びをトコトン支える県民の会でやったこと(その1)

学校や先生が担っている業務について、どうしたら負担を減らせるか、
学校は、保護者との関係性をどうつくっていけばよいか、
について考えました。





(参考)文科省3分類「基本的には学校以外が担うべき業務」の棚卸し

×やめてよい、△どちらとも言えない、○学校がやるべきだ

業務	A	B	C	D	E	F
①登下校に関する対応	×	×	×	×	×	△
②放課後から夜間などにおける見回り、児童生徒が補導された時の対応	×	×	×	△	×	×
③学校徴収金の徴収・管理	△	×	×	×	×	×
④地域ボランティアとの連絡調整	△	×	△	×	×	△



(参考)「保護者との関係性をどうつくっていけばよいか」で出た意見の整理

大きく「**良好な関係性**」「**学校側の仕組み・体制**」が必要との意見があった。

保護者と学校は、本来は仲間なはず。

そうなるように、トラブルの数（分子）は減らせなくても、**感謝を伝える数（分母）**は増やしたい。

保護者自身の過去の体験やイメージから、学校への期待が過度に高く、それが不満に繋がっているのでは

子どもが親・先生双方の顔を見ながら健やかに育っていける環境が理想。
仲良くしよう。
そのためには「子ども」を主語に

正直、学校は**苦情対応の体制が不十分**。**教員の個人任せでなく、チームによる対応**が必要では？

保護者対応の外部化は責任放棄と誤解される懸念も。
第三者を含めた調整や、丁寧な人間関係づくりが今後求められる

クレームは一部の特定保護者が繰り返す傾向。**外部OB人材の活用等で対応を強化したい**



子どもの学びをトコトン支える県民の会でやったこと(その2)

一人ひとりの学びたいを叶えよう 信州

「子どもの学びをトコトン支える県民の会」 共同宣言

「子どもの学びをトコトン支える県民の会」は、子どもの学びを
県民みんなで支える機運を高めるために、立場を超えて集まった会です。

子どもたちが、一人ひとりの「好き」や「楽しい」、「なぜ」ととことん追求
するには、先生の支援が必要です。
しかし、学校の先生たちは多忙で、子どもと向き合う時間が十分に
確保できない現状があります。

そこで私たち「子どもの学びをトコトン支える県民の会」は、
**一人ひとりの学びたいを叶えるため、
先生が子どもと向き合えるよう応援します**



【子どもの学びをトコトン支える県民の会】
一般財団法人長野県交通安全協会、公益社団法人信濃教育会、信州大学、
信州学び円卓会議、長野県、長野県警察本部、長野県教育委員会、
一般社団法人長野県経営者協会、長野県中小企業団体中央会、
一般社団法人長野県商工会議所連合会、長野県商工会連合会、長野県高等学校長会、
長野県立高等学校PTA連合会、長野県公民館運営協議会、長野県市長会、
長野県市町村教育委員会連合協議会、長野県小学校長会、
長野県私立中学校協会、長野県中学校長会、長野県町村会、長野県特別支援
学校校長会、長野県PTA連合会、長野県養護学校PTA連合会、松本大学

※要不同
皆さんからの
メッセージは
こちらから



一人ひとりの学びたいを叶えよう 信州

来校者のみなさまへ

教育活動に対する日頃のご理解とご協力に感謝申し上げます。
お互いを尊重し合いながら、子どもの笑顔と学びの充実のために、
共に力を合わせていきましょう。

教職員に対する“行き過ぎた行為”はご遠慮ください



暴言・大声
長時間の拘束
人権の侵害
インターネットへの無断アップロードや、
SNS等での誹謗中傷はやめましょう

落ち着いて話すことで
気持ちは伝わります
限りある時間を
子ども一人ひとりの
ために

長野県
長野県教育委員会
Nagano Prefectural Board of Education
子どもの学びをトコトン
支える県民の会

「みんなで学校を支えます」
という共同宣言を
発出しました。

併せて、一部の保護者等の
来校者による“行き過ぎた
行為”をご遠慮いただくた
めの啓発ポスターも、
支える会の同意のもと
作成しました。

これらはポスターにして各
学校に配布するほか、
県のHPから自由に
ダウンロード、印刷して
ご利用いただけます。





学校現場からの声

今までは「学校が頑張らなくちゃ」と思っていた。今回の話を聞いて、「地域が学校を支えてくれる」という雰囲気を感じた。ぜひ、具体的な活動につながってほしいと思った。（校長）

ニュースを見ていたら流れてきた。
いろんな方を巻き込んで学校を支えていこうとすることが
伝わってきて、嬉しかった。（教諭）

「来校者の皆様へ」のポスターは、疲弊した職員の防波堤の
1つとなり、心強いと感じた（管理職・教諭から多数声あり）



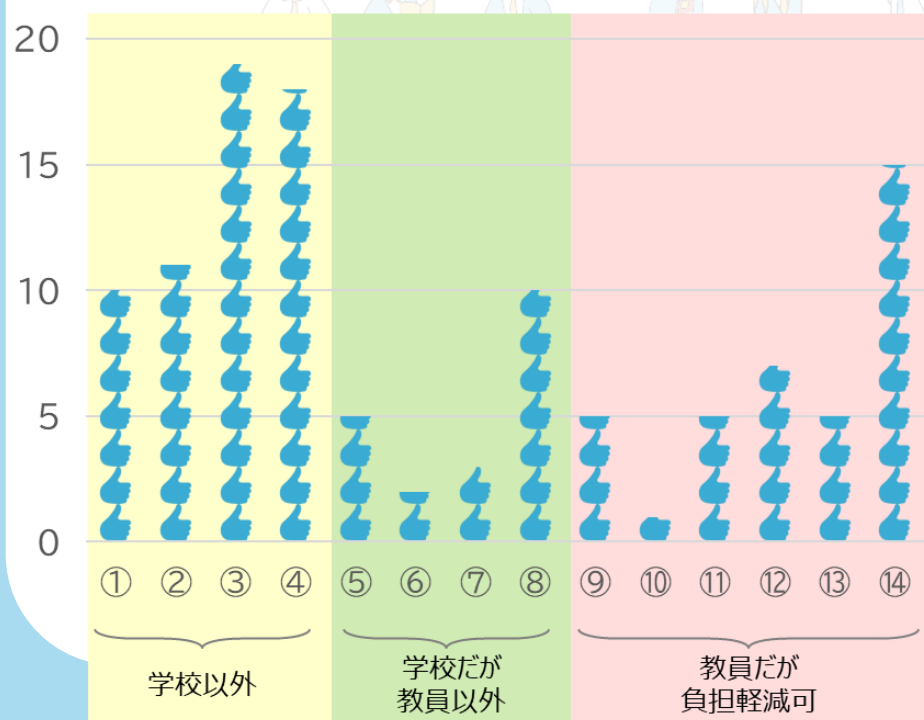
8/6ともつくミーティングでも取り上げていただきました

実施内容

3 分類から関心のある業務を選び、「先生の負担軽減できそうなこと」のアイデアを考え、共有し、参加者がその実現に向けて、取り組みたいことを宣言した。

出た意見・アイデア（例）

出されたアイデア数(延べ)



①登下校 ②放課後	地域みんなで取り組む。学校以外にも警察や福祉等、青少年健全育成の関係者は多くいる。
③お金の 管理	公金管理が出来るよう、市町村教委や県教委にお願いする。 キャッシュレスの導入。
④地域 連携	コーディネータをネットワーク化したい。 まずはLINEグループ作る。校内にコミュニティルームを作るとか。
⑤調査 回答	システム化・DX改革を仕切る人が必要。 多少の業務変化を許容する学校・教員側の理解も必要。
⑥休み時間	命に係わること以外は、子どものためにも過度に介入せず任せる。
⑦掃除	清掃指導は、そもそも必要か？
⑧部活	部活をやりたい教員もいるので、その人たちもやりやすい空気作りを。 部活メインで授業時数が少ない教員の採用枠を作る。
⑨給食	地域の人と一緒に食べる。高学年が低学年の面倒を見る。
⑩授業準備	毎日4～5時間授業にしては？
⑪評価 成績	成績処理や複数データ分析には思い切ってAI使い、 出てきたアプトットを元に対話を重視する。通知票をやめる。
⑫学校行事	地域行事ということにする。地域の人と一緒につくる。
⑬進路指導	出身の大学生や、経験豊富で志のある外部の方をお願いする。
⑭支援が 必要な 児童生徒 家庭への 対応	学校に来る子ども・・・担任ではなくチームで対応 学校に来ない子ども・・・不登校は学校だけが原因とは限らない。学校以外 の機関と共有し、連携を（頼ってほしい） 保護者・・・お互い安心して対話できる関係づくり 共通・・・対応時間創出のため、毎日4～5時間授業にしては？



一人ひとりの学びたいを叶えるため、
先生が子どもと向き合えるよう応援します



(県教委のこれから)
この宣言から
各地で取組の
狼煙が上がるよう、
伴走支援に
取り組みます。



伴走支援



学校改革に挑戦する教員のネットワーキング

県内教員向けに開催している働き方シェアミーティングで学校改革に意欲的な教職員をつなぎ、校種やエリアを超えたコミュニティをつくります。



学校改革の伴走支援

学校改革支援センターや、文科省「学校における働き方改革の推進に関する調査研究」を活用し、「この会のような話し合いを学校単位でも持ちたい、学校を変えたい」と思っている学校を伴走支援します。



負担軽減

子どもを中心とした「探究県」長野を実現するために「新しい当たり前」を創る

長野県教育委員会



ウェルビーイング実践校 TOCO-TONなど学校の改革を進める

- ・学校改革による子どもたちのウェルビーイング実現
- ・県立高校の特色化・魅力化の推進
- ・多様な学びと子どもたちの心を支援

教員の処遇改善により意欲とゆとりを創出

- ・欠員解消など教員の勤務環境を改善
- ・中山間地校の教育の充実

教員業務の削減・効率化

教員が子どもと向き合う時間を十分確保する

- ・調査、報告類の削減・簡略化
- ・県立高校における電子採点システムの導入
- ・県立高校の入学選抜にインターネット出願を導入
- ・県立学校のIT環境の整備
- ・小・中学校教育課程研究協議会のあり方の見直し
- ・主幹指導主事による学校訪問のあり方の見直し

地域ぐるみで子どもを育む

地域・民間等にも役割を担っていただく

- ・中学校部活動の地域クラブ活動への移行を推進
- ・不登校児童生徒への支援を充実
- ・学校行事のあり方の見直し など